

### 第3回（仮称）はぐくみの軸強化方針検討会 会議記録

日 時：令和4年3月8日（火）15:00～17:00

場 所：札幌市民交流プラザ 2階 SCARTS スタジオ

出席者：

（（仮称）はぐくみの軸強化方針検討会 委員）

北海道大学大学院 農学研究院 准教授	愛甲 哲也 氏
株式会社石塚計画デザイン事務所 顧問	石塚 雅明 氏
北海学園大学工学部 教授	岡本 浩一 氏
北海道大学大学院工学研究院 教授	高野 伸栄 氏
札幌商工会議所住宅・不動産部会副部長 （株式会社藤井ビル 代表取締役）	藤井 将博 氏
千葉大学大学院工学研究院 教授	村木 美貴 氏（座長）
札幌市立大学デザイン学部 准教授	森 朋子 氏
独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部 北海道まちづくり支援事務所 所長	門田 高朋 氏

（事務局）

札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室長	稲垣 幸直
札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室 都心まちづくり課長	岩田 朋道
札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室 都心まちづくり課エリアマネジメント担当係長	佐藤 大輔

（関係部局）

札幌市建設局みどりの推進部みどりの推進課長	中田 稔
-----------------------	------

議 事：

（札幌市 岩田都心まちづくり課長）

定刻となりましたので、ただ今から第3回（仮称）はぐくみの軸強化方針検討会を開催いたします。本日はお忙しい中ご出席頂きまして誠にありがとうございます。私は事務局の、札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室の岩田と申します。よろしく願いいたします。

まず、配付資料の確認をさせていただきます。お手元に配付しました資料は次第、資料1 座席表、資料2 （仮称）はぐくみの軸強化方針検討会 委員名簿、資料3 第3回検討会資

料、参考資料 はぐくみの軸強化方針中間報告書【概要版】、以上ですが、不足はございませんでしょうか。なお本日は、西山委員がご都合により欠席されております。西山委員へは事前に資料をご説明しており、ご意見を頂いておりますため、後ほどご紹介いたします。

また、事務局として、札幌市都心まちづくり推進室、業務受託者である株式会社日建設計、関係部として札幌市みどりの推進部が出席しております。なお報道各社におかれましては、この後の写真撮影はご遠慮頂きますよう、お願いいたします。また、本日の検討会について、個人に関する情報など非公開情報を除き、会の次第、出席者氏名、発言者等を記載しました議事録を作成し、公表しますので、ご了承ください。

それでは、村木座長に以降の会議の進行について、お願いしたいと思います。村木座長、よろしくお願いいたします。

(村木座長)

それでは、さっそく議事に入らせて頂きます。  
次第に従い、事務局から資料説明をお願いします。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

それでは、お手元の資料3をご覧ください。

表紙左下の「本日の論点」をご覧ください。本日は、第2回検討会でご意見頂いた内容が、将来像に反映出来ているかについて、はぐくみの軸全体、ゾーン毎の2つの観点からのご意見をお願い致します。

1ページ、2ページについてはこれまでの振り返りの為、説明は割愛致します。

3ページをご覧ください。こちらもこれまでの振り返りの内容ですが、これまでの検討会で設定した目的と理念のもと、はぐくみの軸の今後を検討する上で特に重視すべき視点として、「象徴・発信」「暮らし・交流」「環境・強靱」の3つのテーマを設定しております。

4ページをご覧ください。ここでは、第1回、第2回の検討会で整理してきた、はぐくみの軸全体の現状や課題をまとめて載せております。上段、「行政計画から導き出される視点」をベースの考え方としつつ、はぐくみの軸に係る歴史と現状分析、考慮すべき社会的潮流を踏まえ、「象徴・発信」「暮らし・交流」「環境・強靱」の3つの視点を持ちながら、次ページ以降の将来像・強化方針を検討しました。

5ページをご覧ください。これまでの検討会で頂いたご意見を踏まえ、はぐくみの軸全体の将来像を再整理し、イメージスケッチを追加いたしました。前回ご提示した将来像からの文言の変更経緯については、参考として19ページに記載しておりますが、ここでの説明は割愛させていただきます。

はぐくみの軸全体の将来像は、6つの項目に整理しております。この内容が本日の論点の1つ目となる重要な部分ですので、一度読み上げさせていただきます。

1. 都心の象徴性が継承され、札幌のまちづくりを支える軸として、新しい都市文化・魅力・

活力を生み出し続けている

2. 大通と沿道が一体となった、札幌を象徴する都市空間と景観が形成され、札幌のブランド力向上をけん引し、世界から投資と人材を呼び込んでいる
3. 大通公園や沿道の公共的空間などが、全ての人々にとって居心地の良い場として愛され、そこでの憩いと交流が、北海道・札幌の魅力的なライフスタイルとして国内外に発信されている
4. 交通結節性の高さを活かし、時代に適応した交通手段と歩行者が共存できる空間が形成され、移動の利便性と歩きたくなる楽しさが両立している
5. 豊かで高質なみどりが途切れることなく展開されるとともに、都心の脱炭素化に向けた取組や災害対策が進められ、うるおいがあり強靱な軸が形成されている
6. 実験的な取組や、市民・企業・行政などの多様な主体の連携を通じて、時代の流れに柔軟に対応したまちづくりが進められている

以上6つの将来像を踏まえ、次のページから、ゾーン毎のより具体的な将来像の検討をいたしました。

6ページをご覧ください。ゾーン毎のまちづくりの方向性については、これまでの検討会で頂いたご意見を踏まえて再検討いたしました。ゾーン区分については前回から変更はありませんが、各ゾーン名の下に、ゾーンの概要を追記しております。

各ゾーンを一言でご説明いたしますと、西Aゾーンは、「ビジネス・行政・商業と言った都市機能の中心的役割を担っているゾーン」西Bゾーンは、「大通公園の遊び・イベントゾーンを含み、沿道は多様な土地利用がされているゾーン」西Cゾーンは、「文化芸術施設等が集積し、交通利便性が高いゾーン」東ゾーンは、「公園や公共的空間が不足し、低未利用地が多いゾーン」となります。

次のページからは、ゾーン毎のまちづくりの方向性を整理しており、本日も議論頂きたいテーマの二つ目となります。

7ページをご覧ください。7ページ、9ページ、11ページ、13ページは前回の検討会資料の再掲ですが、頂いたご意見を受けて一部修正しております。西Aゾーンでは「市民がまちの変化を体感するリーディングエリアになるべき」とのご意見を受け、ゾーンの将来像【象徴性・拠点性】の内容に反映いたしました。さらに「中高層、地下も含めて立体的に公園等の一体性を考えるべき」とのご意見を受け、ゾーンの将来像【沿道の賑わい、公園との一体性】や次のページのイメージ図に、周辺のまちと立体的につながる空間の形成について追記いたしました。また、「回遊の表現を、各場所に適した表現にすべき」とのご意見を受け、図の中の賑わいの軸・繋がり軸はより強調し、創成川以東にも公共的空間が連続していく表現としました。一方で掲載の図はイメージ図であり、特定の地点についての具体的な説明をするものでは無いこともご留意頂ければと存じます。同様の注釈を図の欄外に追記しております。

次に8ページをご覧ください。こちらは今回新たに追加したページです。まずは全ゾーン

に共通する内容のご説明を致します。上段と下段に分け、ゾーンの現状と将来像のイメージ断面を表現しております。北一条通から大通公園を挟んで南一条通までの断面イメージです。具体的な位置の断面図ではない旨、ご留意頂ければと存じます。中段の、矢印の上下の部分にご注目頂きたいのですが、こちらが全ゾーンに共通する、現状から将来に向けての「はぐくみの軸強化」の考え方を表現したものです。現状は上段のバーに示す通り、道路や街区、公園の使い方が明確に区分されていますが、将来像では記載の通り「街区・道路・公園が、一体的な軸として認識されている」という事が、「強化されたはぐくみの軸の将来像である」という事を表現しております。この大きな考え方をベースとして、ゾーン毎に個別の内容を検討しています。

それでは西 A ゾーンの説明に移ります。西 A ゾーンの将来像イメージでは、建物の更新に合わせて環境配慮が進み、機能の集積などを通じて多様な人材が集まることで、さらなる賑わいや象徴性が強化されています。

みどりのネットワークは創成川以東へと延伸され、より軸としての一体感が増している様子を表現しています。

9 ページをご覧ください。西 B ゾーンでは、「ゾーン特性のキーワードが示せていない」というご意見や、「都心居住とビジネス関係が混在する特性を生かして新しいライフスタイルを楽しめる場、という位置づけがあるのではないか」というご意見を受け、強化の考え方の見直しを行いました。また、当ゾーンは市電の電停が位置するなどの、交通便利性の高さに関する方針がありませんでしたので、今回将来像やゾーン特性の中で【回遊性】の項目にて、大通公園及び沿道を中心とした回遊性の強化を追記いたしました。

10 ページのゾーンの将来像イメージでは、居住者、就業者、来街者による日常利用に、より着目した記載をしております。公園と沿道との繋がりがより強化され、交流の場として利用される事で、訪れる人が都心のライフスタイル・ワークスタイルを享受している将来像を描いています。沿道建物ではリノベーションなどにより強靱化や環境配慮の取組が進んでいます。

11 ページをご覧ください。西 C ゾーンでは、「西 C ゾーンを核とした広がりイメージを検討すべき」や「知事公館などとの繋がりを位置付けてはどうか」「南側にも広い視野で検討すべき」といったご意見を受け、ゾーンの将来像【都心西側の回遊拠点】内の「知事公館」などの具体的な内容を追記し、図中では「周辺と連携した交流・回遊」を上段に配置し、より強調出来るように修正しました。また、文化芸術を活かしたまちづくりについてもご意見を頂いておりますので、将来像の【歴史と文化が漂う風格ある景観】内に「市民交流を生み出す芸術活動の展開」などの文言を追記しました。

12 ページの将来像イメージでは、西 C ゾーンの立地特性を生かした、歴史的資源や周辺の集客交流施設との連携による回遊性の向上を描いています。周辺のまとまった緑とも平面的に繋がり、より広範囲でのエリア価値向上を目指しています。また、周辺の建物用途の多様性を活かし、エリア単位での BCP や強靱化の取組が進んでいます。

13ページをご覧ください。東ゾーンについては、図の中の東4丁目通を将来整備予定の形状に合わせて修正するとともに、「場所に適した回遊性の矢印の表現とすべき」というご意見を受け、大通、低未利用地、地下鉄コンコース、サッポロファクトリー、二条市場など、様々な地域資源を生かしてゾーン全体の回遊性向上を目指すという意図から、具体的な記載ではなく、概念を表すより柔軟な表現に修正しました。また、「機能や量など何らかの方法で緑のネットワークを繋げていくと良い」というご意見を受け、将来像の【回遊性・緑・公共空間】内の文章を修正し、みどりの内容に加えて地域資源等とのネットワークについても記載しました。

14ページの将来像イメージでは、大通公園の緑の機能が豊平川まで繋がり、パブリックスペースや低・未利用地の利用が促進されています。良好な職住近接の環境が出来ることにより、それを求めて多様な人材が集まり交流する様子も表現しています。また、面的エネルギーネットワークの導入や、個別の建物での環境性能の向上が図られ、エリア総体での環境配慮が進んでいます。

15ページをご覧ください。ここからは、次年度以降の検討内容のご説明となります。15ページでは、将来像を検討するにあたり設定した6つの取組分野について、それぞれに施策の例を示しています。これらの例をもとにして、次年度以降、具体的な内容を検討してまいります。

16ページをご覧ください。次年度は具体的な施策展開の方向性や、取組推進に向けたマネジメント体制などの検討について、議論を進める予定です。その後パブリックコメントなどを経て、方針策定に向けて調整を図っていきます。

次の17ページ以降は参考として添付しております。17ページ、18ページは第2回検討会での指摘事項と対応方針をまとめたものです。右側「対応方針」の青く塗った部分が今回の資料に反映しているもの、黄色が次年度以降に「取組分野の施策展開の方向性検討」の中で整理予定のもの、緑色は別途調整が進んでおります「都心のみどりづくり方針」の検討にて整理する予定のものでございます。個別の説明は割愛させていただきます。

1ページ飛んで、19ページをご覧ください。こちら5ページにて概要をご説明いたしましたので、ここでの説明は割愛させていただきます。

資料の説明は以上でございますが、最後に、本日ご欠席の西山委員から、事前に本日の資料全般に関して、何点かご意見を頂戴しておりますので、概要を紹介させていただきます。

まずは、5ページのはぐくみの軸全体の将来像の3つ目、「北海道・札幌の魅力的なライフスタイルとして国内外に発信されている」という部分に関し、「働く人」「子育て世代」「中高生、大学生」といったように、大通公園を利用する行動パターンが違う人々を具体的に想定して、それぞれについて、いつ・どうやって大通公園を使いたいのか、などを分析し、そのために何が必要かといった視点から、はぐくみの軸ならではのライフスタイルを検討して、分かりやすい言葉で示していくべき」というご意見を頂きました。また、季節性の要素についても盛り込むべきという意見を頂きました。例えば、大通公園につきましては、雪

まつりが世界的なイベントとして定着している一方、それ以外の期間は、いつでも市民が日々の暮らしの中で日常的に集っている空間としていっても良いのでは、ということでした。以上2点は、市民が大通公園に日常的に集う豊かなライフスタイルの実現が、人々の定住につながるるとともに、それが対外的に発信され、観光客もそういった豊かさに憧れ、さらなる来訪者を呼び込んでいく、という観点からのご意見でした。

続いて、将来像の5、「豊かで高質なみどりが途切れることなく展開されるとともに・・・」という部分に関し、「単にみどりがつながることが大事なのではなく、沿道街区と大通の関係度を高度な次元でデザインしたときに、どういった「みどり」が良いのかについても考えるべき」とのご意見を頂きました。

最後に、9 ページなどの「ゾーンの将来像」のイメージ図に関して、「南北の断面図の記載があるが、ブロックごとに分かれている印象がある。札幌駅前通から大通方面を眺めたときにアイストップとなるような空間など、大通公園の連続性を作っていくということも考えていくべき」というご意見を頂きました。

資料3の説明は以上でございます。

続きまして、右上に「参考資料」と記載している資料をご覧ください。はぐくみの軸強化方針につきましては、今年度、検討会を3回実施した後、3月下旬に、第1回検討会からご議論頂いた内容を取りまとめた「中間報告書」を公表する予定としております。中間報告書は、本書と概要版という構成で作成したいと考えておりますが、本日の「参考資料」は、概要版のイメージでございます。本日は時間が限られているため、詳細の説明は割愛させていただきますが、計画策定の目的や理念、現状分析、はぐくみの軸全体の将来像やゾーン毎のまちづくりの考え方を、まとめて掲載いたします。本日いただくご議論も含め、基本的にはこれまでの検討会資料をまとめる形となりますため、その内容については事務局にご一任頂きました上で、公表に先立って、委員の皆さまにはご報告をさせて頂きたいと考えております。なお、中間報告からは、(仮称)の文字を削除し、「はぐくみの軸強化方針」という名称で進めさせて頂ければと考えております。

資料の説明につきましては、以上になります。

(村木座長)

ありがとうございました。それではここから意見交換に入りたいと思うのですが、本日の論点ですが、最初にご説明頂いたように、まず一点目の「はぐくみ軸全体の将来像」についてご意見頂きたいと思っております。資料3の5ページ目ということですね。これに対してのご意見が頂けますと幸いです。いかがでしょうか。

(門田委員)

5ページ目でございますけれども、ここについてはイメージスケッチもつけて頂いて、かなり分かりやすくなってきたのかなと思っております。ただ一点だけ4の

ところですが、ちょっと気になる部分があるのでそれについてお話しさせて頂きたいと思  
います。これまでも2回の会議の中で、今の道路は片側3車線ずつありますが、時代に  
応じて、例えば広場的な空間として使ったりとか、歩行空間として強化したりとか、ここにも  
書いてありますように時代にあった新たな交通手段で使うとか、そういうことがやはり将  
来に向けて大事ですよ、という意見が何回も出ていたと記憶してございます。それがどこ  
に該当するのかと考えますと、この4になると思いますが、例えば、「道路空間の柔軟な活  
用」とか、もう少しわかりやすいキーワードが入ると、ここで言いたいこと、大事なことが  
伝わりやすくなるのかなと思います。今までの議論を踏まえて、できればもう少しこのあた  
りの表現の工夫をしていただけるとよろしいのかなと思ったところでございます。以上で  
す。

(村木座長)

ありがとうございます。いかがでしょう。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

我々はもともとイメージしていたのがこの将来像ということで、その将来像を実現する  
ために具体的にどう取り組んでいくのかという中で、その具体的な柔軟な活用の仕方みた  
いなことも記載できればという風に一旦は思っていたんですけども、そういった表現も  
盛り込むことができないのか検討したいと思います。

(藤井委員)

今のお話にちょっと関連したことなんですけれども。見ていてですね、道路と公園のつな  
がりの話で、一体感を持たせるっていう事が書かれていたんですけど、どういう風に一体  
感を持たせるのか、というのがいまいち理解できなかったんですけど。例えば沿道を活かして  
ビルの下、外に突き出したようなお店とか、フランスとかによくある外に椅子を出したりし  
て、人を眺めながら食事をしたりしている風景がありますけども、そういう雰囲気を求める  
のであれば、やはり道路は邪魔じゃないかなと思うんですね。そう考えた時に、例えば道路  
を片側だけにして、片方は道路を無くしてしまつてつながりを出すとかですね、そういった  
ことも考えてはどうかなと。この4番のところ、車が間を走ってる絵ですね、これだとやは  
りちょっと危ないのかなというイメージがありまして、そういったことも考えてはどうか  
なと思いました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。何かご回答されますか。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

ありがとうございます。今仰っていただいたご意見も非常によくわかりまして、この計画で目指すべき将来像、その目指すべき将来像を実現するためにどういうところから取り組んでいくのか、その取り組みの方向性を最終的に記載できればいいと思っています。それで、道路を例えば減らすですとか、完全に片側無くすだとかも含めて、色々な可能性があると思いますが、それを仮に実現しようとなった時には、もちろん沿道の事業者の方、地権者の方、それから色々な交通に関わる関係の方々と一緒にですね、例えば社会実験のような形として皆さんにそのメリットを感じてもらいながら、徐々にそれに向けて取り組んでいく。その結果として車線が減ったりですとか、例えば道路が無くなって広場的な空間になるのか、公園が広がるのか色々あると思うんですけども、そういったものが実現してくというふうに考えていまして、我々としてはこの将来像にそういう目指す方向性を書き込んで、さらにそういった社会実験なども含めた検討を後押しするような書きぶりを最終的に目指していきたいという風に思っております。この4番の絵もまだ工夫する余地はあるかもしれないんですけども、今までと同じような、車が全部走る状態ではないようなものがなんとか表現できないかなということ考えて書いたつもりだったんですけども、その辺りも最終的に方針を作るまでにはどういった表現方法がいいのか、引き続き検討していきたいという風に思っています。

(村木座長)

それに関連して私も質問したいんですけども、今ここで1から6までありますよね。それで、その1から6までの中に、項目が赤とか黒とか黄色で書かれている。それで、これらについて、6つの取組分野は次年度以降に具体的な内容を検討する、とありますけれども、その検討というのは、例えば1番の都心の象徴性、というものについての検討なのか、それとも土地利用のあり方とかマネジメントのあり方とか、その辺りを分解されるのか。同じことの繰り返しみたいなようにも見えるし、そのあたりをどうするのが読み手とか市民とか、今後の開発事業を考えた時にみんなにわかりやすいものになるのか、そこはもう少し考えないといけない気がして。今この段階で1から6までこうしてイメージが出るのと、この後枝葉をつけていった時に、それが決してわかりやすいかがわからないなという感じがして、このあたりももしよろしければ皆様のご意見をお伺いしたいなと思います。他に何かありましたらいかがでしょうか。どうぞ。

(岡本委員)

岡本です。今のお話に少し関連するかなと思うのですが、こちらで今出されている将来イメージが20年後なのか50年後なのがよく分からなくて。計画期間内では将来像の途中としてここまで目指しています、その先にもっと良くなります、という話で、そのもっとよくなる本当にあるべき姿を描いてから手前の10年間ではこのようなイメージが出てきます、という話なのか、その辺りのタイムスケジュール感がよく分からないので、掴みきれな



いなと感じていました。加えて、5 ページで言うと、6 番のところで多様な主体の連携という記載がありますが、もっと踏み込んだ表現にして欲しいなと思っています。将来像を考えるにあたって、本当に建前だけではなくて、多様性というのが少しずつ認識されて浸透しつつあるんじゃないかなと思っています。多様な主体、インクルーシブデザインみたいな話を良く耳にするようになってきましたから、かなり初期の段階からまちのあり方を、様々関わる人たちと意見交換をして考えていく、というようなフィールドも用意しながらやっていきます、という話が入って欲しいなと思いました。あと一点だけ、今は大通公園の地上の話をしてしていますが、地下もすごく重要な動線であったりとか、人々をサポートする価値を持っていたりすると思います。それぞれのゾーンがあって、各ゾーンで地下の話がさらっと触れられてはいますが、もう少し地下と地上との連携も何か一言入るといいな、と思っていました。

(村木座長)

ありがとうございます。今のご意見はすごく大事なことだと思うんですけども、タイムラインがない。そうすると、多様な主体との連携って、実は今も本当はできていないといけないことであり、将来までも渡ってそういうことが必要である。それに対して道路の空間みたいな、先ほど藤井さんのご意見があったようなものって、明日すぐできるようなものでもなかったりするんで、いつ何をして将来どんなはぐくみの軸を作りたいのか、といった、そういうことを考えながら将来像を詰めていった方がいいと、そういうことですよね。その辺り何かありますか。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

まず2 ページに記載をしておりますけれども、今回の方針の計画期間につきましては20年ということで一旦考えております。それで20年後にこの将来像が実現することを目指していくということで、5 ページで記載をしているつもりです。今の段階では、まだこの将来像を検討しているところだったんですけども、この将来像を実現するために、ここに書いてあるような6つの視点で眺めていくと、どういった取組をやって行かなくちゃいけないのか、ということを新年度に引き続き検討して行こうと考えていたところでした。この将来像を実現するために、誰がいつ何をどうしていくのか、というところは、この方針のマネジメントというところも含まれるのかもしれないですけども、そこは引き続き考えていきたいなという風に思います

(村木座長)

岡本先生、いいですか。

(岡本委員)

計画期間が20年っていうのは都市計画の一般的な考え方で20年なのでしょうし、行政としてもそういう考え方で進めるのが通例だと思うので、仰ることは良くわかります。最終的にはもちろん都市は人も変わるし経済も変わるし生き物なので、絶対こういう将来、というのは全然ありえないんですが、今の状況を踏まえてどんなまちにしたいっていうのは結構高い目標像に設定していた方がいいような気がしています。大通公園の両脇の道をつぶして緑化するとかまで踏まえた時に、では20年後だったらどのくらいまでそれを実現していくのかという、もうワンスパン広い目で20年というのを見てもらえると本当は嬉しいなと思っていました。

(村木座長)

ありがとうございます。その辺りよく考えていく必要があるので、事務局の方で今いただいたご意見は少し考えて頂いて、次回の時に何か頂ければと思います。では、お待たせしましたが石塚さんお願いします。

(石塚委員)

さっきの村木先生の話に繋がると思って手を挙げさせて頂いたんですけども。そもそもこの方針っていうのはどういう役割を担うものなのかということ考えた時に、行政の中での今後の計画策定の指針ということではなくて、優れて市民の皆さんや、それから事業者の皆さんと協働で大通周辺の将来像を実現していくための方針という役割を担ってるんだと思うんですね。そうしたときに重要なのは、やはりこのテキストを市民や沿道の地権者や事業者の皆さんが見た時に、内容がきちっと伝わる、イメージできるものでなければ意味がないんじゃないのかなと思っています。ここ何回か議論させて頂いて、ここにいらっしゃる委員の皆さんは、おおよそこの文章を読んでこういうことを言いたいんだろうなというのは類推できるんですけども、これを初見で見た方々が本当に理解できるかと言ったら非常に疑問のような気が致します。そもそも将来像の前の検討の視点とされた象徴・発信、暮らし・交流、環境・強靱というキーワード。これが将来の大通の周辺のまちづくりを考える上では本当に重要なキーワードだということを市民がストンと落ちるんだろうか、と。そしてこの将来像のテキストも、ちょっときつい表現になってしまうかもしれないんですけども、どの都市でも、都心のどの場所でも当てはまるようなキーワードを多用していることで、かえって大通の固有的価値を将来どのように活かして行こうと言ってるのかというところが伝わらないという状況になってしまってるんじゃないのかなっていう気がします。将来像というのは行政が責任持ってこういうまちづくりをしていきます、ということで高らかに謳ってそれを実現していく、という時代ではもうなくなっているはずで、やはり市民の皆さん事業者の皆さんと将来像を見据えながらもそれにどのように到達していけるのか、場合によってはそれをどのように柔軟に変化を持たせながら目指すべきところを実現していくのか、ということ動きながら考えていくという時代になっているんじゃないかなと思

うわけです。そういう時には従来、目標像として行政が責任を持つということになると、どうしてもその将来像というのは抽象的な表現になりがちなところがあると思います。ただ、繰り返しになりますけれども、今回、メッセージを市民や事業者の方々に届けるとすれば、先ほどから委員の方々が口々に仰られている、もっと具体的に将来何を目指していくのかということがわかりやすい表現にしていくべきだ、ということが実現されないといけないのではないかなという気がしています。その具体の姿を理解するために、さきほど村木先生が仰られたように、6つの取組分野における方向性っていうのが、それをブレイクダウンして伝えていく役割を担うのかなと、全体的には理解していたんですけども。今回提示されているテキストを見ると、将来像を分解しただけの内容になっているので、これでは堂々巡りをして、何をどういう形で市民や事業者の皆さんと一緒に進め、どういう将来像を実現しようとしているのか、ということが伝わらないのではないのかなという気がしています。これはそろそろ中間取りまとめという段階で、来年何回かでもパブコメに行くという段階でこういう話をせざるを得ないのはちょっと心苦しい面はあるんですけども、本来の方針の目的に立ち返って、そこはもう一度きちっと精査をして組み直して頂きたいというのが私の意見です。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。ちょっと重たいご意見ですけども、とても大事なことで、一番私が今のご意見の中で響いたのが、どこにでもあって大通の固有性というのが見えてこない。本当にそれでいいのか、ということは考えた方がよさそうな気がします。他にご意見いかがですか。高野先生。

(高野委員)

2ページで、1回目の議論であったと思うんですけど、はぐくみの軸というのがどうして重要なんですかっていう議論がしかけた時に、これもう色々な規定計画の中に織り込み済みですから、というお話があったように覚えているんですけども。その証左としてですね、このはぐくみの軸の説明の右に、戦略ビジョンから始まる色々な計画が書いてあって、こんな形で位置づけられてるよっていうのがここで主張されてるんだと思うんですけども。市民にとってみると、その前からいろんな規定計画にあったかもしれないけれども、このはぐくみの軸って一体何なのかと。それからどうしてここを色々考えなくちゃいけないのかっていうのが、今の石塚さんかのお話もありますけど、その市民向けに情報発信とするならばすごく重要なんだけど、そこが全然議論されてないと思うんですよ。この会議の中でもそこはあまり議論してこなかったという風に思うんですけども、改めてこの2ページの図を見てみると、6ページにもあるんですけど、今札幌駅交流拠点というところに新幹線も来るし、東側に改札口も来るし、もともとこのにぎわいの軸というのは、調べるとものすごく人も物もお金の流れも激しく南北に行き交ってるにぎわいの軸で、まさに賑わって

るし、それからつながりの軸というのは創成川だからこれはもう物流と車の軸ですよ。さらに今はそんなに強くないんだけど、いとなみの軸というのも東側の開発によって南北の軸はこれから出来上がってくると。それはそういう議論があり、なおかつそれをその横展開していくという意味ではぐくみの軸があって、そのはぐくみの軸はその子ども達が遊べるような公園もあれば歴史施設もあるし、そういう意味では縦の経済軸とか、そういうものを横展開して行って、その景観だとか人の豊かさを育てるような、まさに育むような軸になるんだというような説明ですよ。だからここれから新幹線も作り、オリンピックはちょっと分かりませんが、そういうものがある中で、この横軸が大変大切なんですよっていうことを最初のところで書く、ということがすごく重要で。逆に言うと概要版はそれが市民に伝わればすごく良いのではないかと。確かに 5 ページのようなこの文言整理も必要かもしれないんだけど、一番ははぐくみの軸ってこれから札幌市民は考えていかなきゃいけないよね、という共感を呼ぶシナリオを最初に作るべきじゃないかなと思っていて。それは今いろいろ言いましたけど、意外に作れると思うんですよ、このはぐくみの軸の重要性というのは。この 2 ページの図を見たりなんかしますとね。そういう意味で、市民のはぐくみ軸に対する注目を引き共感を呼ぶという作り込みが必要なんじゃないかなと思いますし。それから門田さんも藤井さんも仰ってましたけど、具体的な政策についても、細かな点はこれから議論するんでしょうけど、こんなことができるよね、というそういうアイデアを出さないと、市民はなかなかそこまで普通の方達は分からないわけで。こんなことをやればもっと良くなるよね、という、そういう概念というか、そういうものは概要版の中に盛り込んでいて、はぐくみの軸の必要性とはぐくみの軸の可能性を市民にこの時点できちんと理解してもらうような作り込みに修正して行った方がいいんじゃないかなと思いました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。そうすると高野先生、この概要版の資料を見た時に、計画の位置づけのフローがありますが、ここはどちらかという、全体のいとなみの軸とか、はぐくみの軸とかが書いてある、そういうものが入ったほうが市民には分かりやすいかもしれない、といったところですかね。

(高野委員)

そうですね、そういう軸との関連との中で、なぜこのはぐくみの軸が重要なんだというのを、きちっと感覚的にわかってもらえる資料が必要なんじゃないですかね。

(村木座長)

ありがとうございます。その辺りも含めてこの概要版のあり方、どうやって説明するか、それは本編の方もそうだと思うんですけども、少しご検討頂けるといいかなと思いますし

た。それでは愛甲先生お願いします。

(愛甲委員)

ありがとうございます。今高野先生が仰ったこととも関係があるんですけども、この理念ですね。理念等となっている「等」もちょっと気にはなってるんですけども、まちづくりの理念が書いてあるこの理念とですね、それから 5 ページの将来像で、この資料を読んで、この理念と将来像がどういうつながりで出てきたのかっての理解できる方がいるんだろうか、と単純に思ってしまいました。皆さん仰ってるように、なかなか繋がりが、計画の作り方というか構成として理解しにくい作りになっています。4 ページのところにある現状と課題のまとめ、それから今言われたはぐくみの軸の話も、この歴史性から導かれる将来性みたいきちん和一応書いてあるわけですね。2-1 のところで、現状と課題のところ。ここをきちんと踏まえた上で、それで理念とか将来像とかが出てきているはずなので、説明の順番としてよくないんじゃないかという気がします。計画の策定の目的までは分かるんですけど、そこでいきなり理念が出てくるので、これはどこから飛び出てきたんだという風に、読んだ方は多分思ってしまう。それからその次に、一応現状とか弱み強みが書いてありますけれど、それでいきなり今度は将来像に飛ぶので、またさらによくわからないということで、説明の順番がよくないと思います。現状と課題のまとめが計画の目的の後にあって、それで理念が出てきて3つの視点がありますよ、それを実現したのがこの 20 年後の将来像ですよ、と、そういう順番じゃないと多分理解できないんじゃないかっていう気がしながら、今皆さんのお話も伺っていたところです。それで概要版については、今度のはぐくみの軸の現状・強み弱みのところに、全部の文章にアンダーラインが引いてあります。メリハリが全くなくて、逆に将来像にこれをつなげて持って行くのであれば、現状で強みであるところ、弱みであるところ、というのをもう少し分かりやすく強調して、全部にアンダーライン引かずに書いていただいた方が、将来像への繋がりがよりわかりやすくなるんじゃないかということと、それと将来像の一個一個についてる文がちょっと長いなという気が正直します。こんなに長い見出しは、読まれないと思います。それぞれ 6 つの将来像の見出しとしてつけるなら、もうちょっとコンパクトに伝わるようなキャッチーな見出しにしたほうが僕はいいと思います。

(村木座長)

ありがとうございます。言われたことは仰る通りかなと思ったんですけど、いかがですか。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

この中間報告は、あくまでも今年度の議論をまとめたものですので、最終的には 1 年後に方針と概要版を作る予定であります。ですので、将来像をもっとコンパクトに、というの

ももっともなご意見だと思いますので、引き続き検討していきたいと思いますし、次回の会議でもその辺りは修正案をお示しできればという風に思います。

(村木座長)

質問ですが、この中間報告というのは3月に出るんですか。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

この方針は2年間で検討するんですけども、1年目ではどういった検討をしてきたか、というところを一旦まとめたいということで、この会議の様態もホームページに議事録は公開していますが、今年度の3回の議論でどんな話だったかということを一まとめようということでやっております、そのための中間報告書という形になります。

(村木座長)

しかしながら、今もご意見がありましたように、課題があつてから理念があつて、そして、というようなご意見があると、この概要版の構成もだいぶ変わりますよね。もしも概要版で公表するのであれば、出来たものを一度皆様にお送りするとか、何か方法が必要かと思いますが、いかがですか。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

元々も公表する前には皆様に一度ご確認頂いて、という風に思っていたのですが、本日頂いたご意見も踏まえて手直しもしなければいけませんので、そこも事前に確認をして頂いた上で公表していきたいなという風に思います。

(村木座長)

それも踏まえていかがでしょうか。愛甲先生。

(愛甲委員)

言っというてこんなことを言うのもなんなんですけれども、話を聞いて思ったのは、この中間報告書が、検討会の中間報告なのか、方針の中間報告なのか。単なる言葉のちょっとした違いですけど、それによって違うのかなと思って聞いていました。

(村木座長)

いかがですか。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

今年度と来年度2か年でやる検討会の中間報告ということで、ここまでの1回目から3

回目のご議論をまとめたもの、という風に考えておりました

(愛甲委員)

であれば、順番とか論理的な流れは最終的な方針で整理されていけばいいのかなと思いましたが。どんな議論がありました、どんな意見がありましたという作りになっています、というのであれば、それでもいいのかなと思います。

(村木座長)

やはり読んだ人が分かりやすくないと概要版を作る意味がないので、少しそこはご検討いただいた方がよいのかなという感じがいたしました。追加でご意見ないでしょうか。どうぞ森先生。

(森委員)

森です、よろしく願いいたします。今日はちょっと資料が変わっていたんですけども、事前に送って頂きました4ページ目ですか。いま皆さんお手元にあるかわかりませんが、ここですね、時代に合わせて形を変えながら、縦軸で歴史を俯瞰しているページが載っておりました。やはり皆さん仰ったように独自性、このオリジナリティーと言うかアイデンティティみたいなものをしっかり確認するにはこの大通公園というものが歴史的にどういう立ち位置で今日に至ったのかを踏まえることが重要だと思います。私が言うことではないかと思いますが、後志通、火防線、それから公園に整備されて100M道路、そしてパークシステムという大きな捉えの中で風致地区になっていった。それが今に至って、100M道路も広島と名古屋にありますけれども、この二つの都市の100M道路は戦後にできてますので、札幌が歴史的にもすごく早い、そして風致地区もかかっている。途中から市役所もそうですし資料館もそうですし、そういった洋館が前庭のように周りに出来てきた。そういったところの歴史をしっかりと振り返って、その上で今後ここがどういう風にあるべきなのかというような話につなげていくような書き方をしたいなという風には思いました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。ある意味時間軸を、どうできて将来どうしていくのか、そういうものを整理されるのがいいというところ、初めのところのご意見と繋がるかなと思いました。他いかがでしょうか。

(高野委員)

今の森先生のご意見にちょっとだけ追加させていただくと、このはぐくみの軸というのは明治開拓の時に北側を官の施設、南側を民の施設で、南1条などはものすごく街が発展

していますけれど、そのちょうど境界にあって北と南、官と民を繋いでる空間だっていうこともすごく重要で、今もってなおそういう名残がすごく強く残ってますよね。そういう発想もすごく重要じゃないかと。そういう視点ですかね、それも忘れてはいけないなと思いました。

(村木座長)

ありがとうございます。出だしのところをどういう風に説明するか、ということも関係するのかなと思ながら伺っていました。その辺りのところをもう少し丁寧に記載するほうがいいのかもしいかなですね。他いかがでしょうか。どうぞ。

(石塚委員)

さっき愛甲先生が言われたこと、私も全く同感です。これやっぱ計画として論理性がないと伝わらないということだと思うんですけども、最初にキーワードありきっていう形で全体を整理してきたことによって、色んな所にほころびが出てきちゃっているんじゃないのかなっていう気がしています。改めてこの大通が札幌の中で果たしてきた役割、そして今後都心でどのような計画を目指そうとしているのか、そして時代のトレンドはどうか、そして大通公園の今の課題っていうことと合わせてですね、何が求められてるかっていういくつかの視点を出してそれで将来像を描いてくという道筋にぜひして頂かないと。先ほど検討会からの中間まとめだからいいというお話もありましたけど、だからこそそういうのは嫌だと、いう感じもありますので。ぜひ、時間がかかるかもしれないですけども、そうして頂けないかなと思います。そうじゃないとですね、どうも最初に組み立てたコンセプトに、委員の皆さんからの発言を接ぎ木のように接ぎ木して行って、結局本来の幹は何なのかがわからなくなっているっていう、そういう現象が随所に見られると思うんですね。本来の本日の検討会のお題である全体の将来像っていうのは、百歩譲ってこれを精査していくと考えた時にですね、例えば最初の「都心の象徴性が継承されて、結果的に都市文化・魅力・活力を生み出し続けている軸」そういう将来像がありますよね。次が都市空間と景観で「大通と沿道が一体になった都市空間と景観がブランド力向上をけん引し世界から投資と人材を呼び込んでいる」という記述になってますよね。これはつながりがおかしいと思うんですよ。都市空間と景観がブランド力向上と世界から投資を引き込むなんていうことは直接には結びつかないわけで、勿論それはサポートにはなりますけれども、力を生むのは最初の目標に書いてある都市文化・魅力・活力が時代に合わせて継続的に創造されてるということでないかと。それが札幌市のブランドを生み、世界から投資を引き込むんだ、という流れなんじゃないのかなと。この文言自体あまり気にしていないですけども、もしこの中で精査していくと、そういう方向性の整理が必要なんじゃないかなと思います。今回は環境問題だとか強靱性だとか、そういう事に非常に力点を置かれている中で、大通公園の持っているみどりとしての資源、これをどのように将来に継承していくか、というのが5点目の



目標になろうかと思うんですけれども。「豊かで高質なみどりが途切れることなく展開されるとともに、都心の脱炭素化、災害対策が進められ、うるおいがあり強靱な軸が形成される」と。ここで2つを一緒にされているんですけれども、これが一緒になるという理屈が直感的によくわからないというか。言ってみれば、みどりがあれば防災性能も向上するということもあるかもしれませんが、市民から見た時に、やっぱりみどりっていうのはライフスタイルと直結して、そこで居心地が良いだとか、そこで時間を過ごしたいだとか、都心の中に居住したり、都心で色々な活動をする事の喜びをサポートする資源だ、という意味合いの方がすっきりくるんじゃないかと思うんですね。そういうことから考えると、3番目の「居心地のよい場所として愛されて、札幌の魅力的なライフスタイルとして国内外に発信される」ということにみどりというのが結びついた方が、より伝わりやすいんじゃないのかな、という気がしています。私の今の指摘が全て当たってるかどうかは分かりませんが、本来何がどうあるべきか、というところからキーワードが出てきて整理をしているんだったら、あまりこういう混乱をしたような、たすき掛けのような状況にはならないんじゃないかな、と思うんです。これはキーワードが先にあるので、そのキーワードをどこに当てはめていくか、ということを作業上やってしまうので、こういう結果になってしまっているんじゃないかな、という気がいたします。ぜひ事務局の皆さんにお願いしたいのは、もう一度方針全体の論理的な筋をきちっと通して頂きながら、随所に出てくるキーワードと目標像、それからこれからやらなければいけないことが、きちっと市民の目にもわかりやすく整理されている、という内容にして頂きたいな、と、思っているところです。

(村木座長)

ありがとうございます。1つの所に複数のイメージが入ってるから、かえって分かりにくい。つまり、6つの将来像にする必要性がどこまであるのか、ということですね。もしかしたら分けての方が分かりやすいのかもしれない。

(石塚委員)

そうですね、そこをどうやって整理するとかは色々なやり方はあると思います。ただ、6つの視点が必ずしも間違っているわけではなくって。あらかじめ設定されている、目指す検討の視点という大きく6つの視点がありますよね。象徴・発信、暮らし・交流、環境・強靱という。それを当てはめていこうと思うが故に、これはどこに書いたらいいんだろう、という形で迷走してしまっているんじゃないのかな、という気がするということです。ですから、最初の検討の視点で、内容が大通公園に対してどういう意味を語ってるのかわからないキーワードはあまり使わない方がいいんじゃないのかな、というのが正直な感想なんです。それよりはまだ全体の将来像を読む方が分かりやすく整理できる可能性があるという気がするので、どこを軸に組み立てていくのか、もう一度立ち返って検討された方がいいのかな、と言う気はします。私のなかでアウトプットがちゃんとできてれば、こう書いたらいいんじ

やないですか、と言えるんだけど、ちょっとそこまで作業ができてないんですけども。市民の皆さんに大通公園、これから象徴と発信が重要ですよとか、強靱さが求められますとか、暮らしが求められます、と言われても、何を言われてるのかわからないのではないかと、思うんですよね。ただ暮らしというのは、今までイベントの場だったりしたものが、もう少し市民のライフスタイルと結びついた場になっていく必要がある、そこでクオリティオブライフを感じ取れる大通になって欲しい、というようなメッセージがあれば、分かりやすいと思うんですけども。暮らしと言ってしまうと抽象度が高すぎなんじゃないか。どう指摘していいのかわからない、自分で言ってもうまく伝わらないかわからないですが、そういう気はしています

(村木座長)

ありがとうございます。では手の拳がった岡本先生。

(岡本委員)

2ページの具体的な話になってしまうのですが、2ページの左下に軸の構成の図があって、都心の範囲の明示、拠点等々があって、上の方には今回はぐくみの軸の計画範囲です、という風に表示していただいています。この上のスケールと下のスケールの中間という話ではないんですが、なぜか植物園とか道庁とか永山邸とかのみどりが、北の方で切れて見えなくなっちゃっていて、電車の電停とか、そういったものも削除されていて、まずはぐくみの軸ありきでここが対象なんです、という表示になっています。話の流れとしてはそうなのでしょうけれども、先ほど高野先生も仰っていたこととちょっと被るんですが、はぐくみの軸がいかに大事なのか、ということが、近隣にあるみどりや機能といったものの中から逆に炙り出されてきて、ここをしっかりと考えていくことが札幌の街にとってとても重要なものだから、ここではぐくみの軸の検討をしていきます、という表現に、本当はなるべきなんじゃないかなという風に思っています。この右下の点線範囲で、ここを拡大してます、と表現されていますが、若干広げて周りに何があるのかというのを明示的に表現した上でこそ、はぐくみの軸を考える、今後の将来を検討する意味があるんだ、という伝わり方になるようにするのが本来は望ましいんじゃないかなと思います。それにはファクトリーもありますし、様々な周りのものがあるので、はぐくみの軸ありきではなくて、周りの関係性を見た時に、はぐくみの軸が担う役割って本当に大きいですよ、という見方になる方が望ましいんじゃないかなと思ったので、お伝えしたいと思います。もう一つの、話題を先走るようで恐縮なんですけど、8ページとかのイメージでちょっと気になったのは、8ページはですね、テレビ塔が立ってないんですよ。それいらぬのかな、という気がして。12ページには西の大倉山とかを描いてあるんです。ちょっと半端な気がしたので、小さいことで申し訳ないですけどもお伝えしておきます。以上です。

(村木座長)

ありがとうございました。どう見せるかというのは大事なので、それは少しご検討いただければと思います。計画の位置づけのところの考え方は、政策論として軸の持つ意味というのをすごく大事に説明していく方向性のためのもなのか、それともここに関連する開発みたいなものを考えていくのか、立ち位置がどちらなのかというのがあまり明確になっていない、というのもあるのかもしれませんが、他、いかがでしょうか。

(門田委員)

西 C ゾーンについて、前回岡本先生が、周辺の知事公邸・公館とか、近代美術館とか、もう少し広い区域で、将来のはぐくみの軸を考えていくことが大事だと仰られていて、私もまさにそうだと思っております。2 ページ目の左下の図は、都心まちづくり計画からきていると思われませんが、一方で都心のみどりづくり方針では多分もう少し広い範囲で緑のネットワーク等について検討されていると思います。高野先生や森先生も仰っていたように、歴史的な背景を踏まえて、現在の役割があり、そのうえで将来のはぐくみの軸を語るということを考えますと、西側はもう少し広くから見るようにしないと語りきれないのかな、という風に思います。現時点で 20 年先を考えつつ、さらにいかに柔軟性を持って、将来の変化にも対応していけるかということも考えて、高い目標としてこういうことを目指すべき、みたいなことを、歴史性も踏まえながら語ることが、市民にもわかりやすいのかなと思います。そういうことを考えますと、西 C ゾーンはもう少し広い図郭で見た方がよいのではないかなという風に感じています。以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。手の上がっていた森先生。

(森委員)

今門田委員が仰られたことと同じようなことを感じていたんですけれども、よそ者として見た時に、例えば円山とか藻岩山は原生林として天然記念物として位置づけられ風致地区でもあるってということ、それから大通りは火防線から公園になり、それから街路と風致地区として、また豊平川も風致地区だと思うんですけれども、まちを計画する中にみどりのネットワークをしていこうという思想の中で位置づけられていると言うこと、こういった広域の視点から都市をどう計画するかという時に、この大通公園の位置づけというのは大変大きいものだと思いますので、そういった意味でこの地図の範囲ですとか、ご検討いただけたらなという風に思いました。以上です。

(村木座長)

ありがとうございました。お二人、範囲のことを結構仰っていましたので、出だしのところでどういう風に記載するかということと関係するので、そこも少し丁寧に考えていた

だければと思います。他、いかがですか。よろしかったら後ろの方に入らせて頂いて、更  
前の方ご意見ありましたら頂きたいと思います。ゾーンごとに目指すべき将来像というこ  
とで後ろは記載されていますが、こちらについてはどうでしょう。先ほどのテレビ塔がない  
という話は追記していただければと思いますが。

(石塚委員)

ネガティブなことばかり言って申し訳ないんですけども、先ほど村木先生が全体の将  
来像を細かく分けなくてもいいんじゃないか、という話もちらっと仰ってましたよね。それ  
と関係するんですけども、全体の将来像とゾーンごとの将来像の関係性がよくわからな  
いですね。一見、6つに分かれてる全体の将来像の「都心の象徴性」っていうのは、西Aゾ  
ーンの「世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点を育む」ってことに繋がってるかのよう  
に見えるし、「札幌の魅力的なライフスタイルが国内外に発信されている」、という事と、西  
Bゾーンの「都市の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ」っていうことがリ  
ンクしてるかのようにも見えたりするんですけども。でも実際にはそういう綺麗な形で  
リンクしているわけではないので、全体像で語ってる将来像と、それからゾーンごとに語る  
将来像の関係が、階層的に全体があってそしてゾーンごとっていうことで整理されようと  
してるのか、ゾーンはゾーンの特色に合わせて目標を整理して、全体は全体でそれとはまた  
別に目標を整理されているのか、2つの将来像の関係性がよく理解できない、というのが1  
点目です。それからゾーンごとの将来像と細かく色々書いていただいているんですけども、  
その見出しとして両鍵括弧【】があって、例えば西Aゾーンでいうと【象徴性・拠点  
性】だとか、【沿道の賑わい、公園との一体化】、【回遊性】だとか、【防災・脱炭素化】。こ  
れは部分的には最初の6つの検討の視点と似ているけれども同じではない。これは一体ど  
ういう理解を助けるためにこういう見出しの括りがされているのかがわからないというの  
と、その括りと内容っていうのは必ずしも綺麗に分かれているわけでもなくて。西Aゾ  
ーンを捉えると、「沿道での高度の土地利用と都心の脱炭素化や強靱化に向けた先進的な取り  
組み」、という言い方をしているんですけども、それって【脱炭素、強靱性】というのと  
リンクしているのか。でも見出しで言うとそこはリンクしてない形になっているので、この  
見出しを読む側として何を理解するための手助けになっているのか、ちょっと分かりづら  
いのと、そもそも最初にある検討の視点、あるいはその後に出てくる6つの取組分野と似  
たような言葉が色々なところに随所に出てきて、それら相互の関係性がかえって分かりづ  
らくなっているかな、という印象を強く持ちました。それと先ほどの岡本先生の話にも関係  
するかもしれないのですが、西Cゾーンに関してはですね、妙に重要文化財の札幌市資料  
館、知事公館、植物園など具体の固有名詞をあげて、それらとのネットワークということ  
を目標に掲げられているんですけども。以前からこの検討会で、これは岡本先生がずっと指  
摘されていたと思うんですけども、西Aゾーンは時計台との関係性抜きには将来像を語れ  
ないんじゃないかって言っている時計台が一つも目標の言葉にも入ってきてないという。

これは将来像なのであまり場所性・固有性にこだわらずに、抽象的に表現されたいということなのかなと思うと、先ほどの西ゾーンはそうでもない。本来ちゃんとその場所性を踏まえてネットワークだとか、価値の複合化みたいなことを考えなければいけない西 A ゾーンについては抽象的な表現のままになってるということで、こういう限られた将来像の言葉使いの中に、何を目指してるのかって戦略性が読み取れない。それとゾーンごとの将来像をお示しいただいた隣にですね、今後将来像実現のために留意すべきゾーン特性という欄を設けていただいて、かなり細かなこと、即地的なことを含めて書いていただいているんですが。この矢印、「将来像」から「留意すべきゾーン特性」という方に向かって矢印があるんですけども。これは内容をよく読むと、将来像を導く上での現状分析がたくさん入ってるんですよね。ほとんどそうなんです。それで、今後留意すべきゾーン特性として、例えばそこではまだ地域で一体のまちづくり活動が生まれてないだとか、そういうのは今後留意すべき内容で良いと思うんですけども、そもそも大半が、この将来像を導くために分析した視点が書かれている。これが左から右への矢印っていう構成ってやはりおかしいんじゃないかと。随所に方向が逆転して流れてるというのは、最初に愛甲先生がおっしゃった、最初の三つの視点と現状課題との関係性なんかもそうなんですけれども、そういうねじれを強く感じています。あとは用語の使い分けの精査というのも、今後のことになると思うんですけども、「防災」と「強靱性」というのはどういう形で使い分けているのか、というのは、これではよく分かりません。細かなことを言ってしまうと環境性能の「向上」っていう言葉もあれば「強化」という言葉もあったり、「ビル」という言葉を使ったり「建物」という言葉を使ったり、色々使い分けの背景的な論理性はあるのかもしれないですけども、一見ただけではなぜこういう形で使い分けられてるのか、というのがわからない用語が随所に見られるので、その辺りの精査も必要になってくるのかな、という気がしています。大きな話から細かな話まで至って恐縮ですけども、以上です。

(村木座長)

ありがとうございます。かなりたくさんのご指摘をいただいたと思います。特にキーワードの使い方っていうのは、読んでいて確かに分かりにくくて、色分けされている赤とか黒とか緑、それと今 7 ページのところで見ていると、左側のゾーンの将来像の中のキーワードは合致しない。だけれども色で同じような事を言っているのであれば、例えば交通と回遊性って一括りにしてしまってもいいものなのか。この辺りはきっと高野先生ご意見あると思いますけれども、そういうことも含めて、もう少し丁寧にまとめていく必要があるのかなという感じを、今の石塚さんのご意見聞きながら私も思いました。他、いかがでしょうか。では高野先生。

(高野委員)

今話をちょっと別の角度から、という形になるんですけど、7 ページ、9 ページ、11 ペ

ージ、13 ページ、という奇数ページを横並びで見て行きますと、偶数ページの上下の図は一瞬あまり代わり映えしないなと思うんですけども、奇数ページはものすごく違うんですよね、各ゾーンごと。それで、一番最初の7ページ、西Aゾーンは、東西の回遊、みたいな点線があって、南北の回遊もあると。ところが9ページになると、南北の回遊はあるんだけど東西の回遊というのは明示的には書いてないから、ここは公園ということなのでそういう回遊的な発想は無しになると。それから11ページになると、不思議なというか、マラソンみたいにUターンするんですよね、回遊が。本当にこんなことになるのかしら、と思うくらいちょっと違う。それから13ページは、全然今までとトーンが違うことになるので、かなりこの4つで奇数ページの左肩の図は全然それぞれ図ごとに違うんですけど。本当にそのこんなに違うのかしら、という一つの疑問があり、なおかつ南北の回遊というのを、例えば9ページだと、こんなに全道路で回遊するという線を伸ばすべきなのか、一部道路は塞ぐということも出てくると思うんですけど。要はここは大通公園から北側南側それぞれ回遊していくからいいのかもしれないんだけど、先ほどこういう回遊と交通が少しごちゃごちゃになってるようなところも感じられないわけでもないです。ちょっとこの奇数ページもドラスティックに違う。特に11ページなんかは、かなり大胆なものになっているんですけど、この辺をよくよく解説する必要、理解してもらうためにかなり図に対する解釈と解説というのが必要だと思うんですけど、まだそこまで議論は行ってないんじゃないかなということを思いまして。まずはこの図についてそういう意味でご検討頂きたいなど。というか、逆に言うところの図について説明いただいたのがいいかもしれませんね。この四つの違いというんですかね。

(村木座長)

そうすると今いただいたご質問に対していかがですか。図がすごく違うということ。

(門田委員)

今の意見にも関連しますが、例えば7ページの西Aゾーンの図で今回特に変わった点は、東西の回遊という文言は前回もありましたが、創成川を越えて東の方に行く青の破線が太くなったというのが一番の違いです。ご存知の通り、創成イーストは低未利用地が多いのですが、色々な起業であるとか新しい価値が生まれつつある中で、東ゾーンの将来像イメージには、「創造的な活動を生み出す低・未利用地の利用促進がされている」とか、「良好な職住近接の環境を求め多様な人材が集まり交流している」とか、そういう記載があります。これから低未利用地でそういった活用がなされるというのは東ゾーンだけでのことではなく、大通・創世交流拠点と密接に結びついていくことで新たな価値が生まれるようなことを表していると思います。ただし、この太い破線の起点は、つながりの軸からではなく、もう少し西のテレビ塔とかその辺りにして、西と東がしっかり結ばれるということを表現するための修正は必要かと思います。これまで議論したことを、図などで差別化しようとして色々

工夫されているのは、例えばこういうところからも見て取れますが、事務方でもう少し補足説明をしていただいた方がいいのかなとも思いました。以上です。

(村木座長)

そうすると、ゾーンの図のこと、いかがですか。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

奇数ページの図なんですけれども、基本的には、ゾーンの将来像で四角が赤とか緑とか青で書いてあるもの、我々の意図としてはなるべくわかりやすくイメージを図に表したいという思いで色々と試行錯誤をして書いたのがこの奇数ページの図でございます。ただちょっとゾーンごとによって確かに仰られるように、色々な温度感も違ったりだとか、そこはまだ詰め切れてない、というのが正直なところでございます。なるべく紫は紫だとか青は青とか色も揃えて分かりやすくしたいなという思いでチャレンジはしているんですけれども、確かにご意見がありました通り、6つの視点のところと必ずしも全部がリンクしているわけではないですので、その用語の使い方等も含めて、計画を完成させるまでにはまだまだちょっと詰めていく必要がある、というのは思っているところでございます。門田委員からフォローしていただいてありがとうございます、まさにこの東西の回遊の青い点線の矢印などは、そういった思いを込めて今回修正したところでしたけれども、この図が完成版ではなくて、引き続き考えていきたいという風に思っております。

(村木座長)

いかがでしょう。高野先生、どうぞ。

(高野委員)

意図だけお聞かせいただきたいんですが、7ページだと緑の太い矢印が南北に行ってますよね。それで9ページだと緑の矢印は無いんですけど、これはどういう違いを意図してるんでしょうか。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

ここは図が最初にあったというよりは、例えば7ページだと緑の四角に文章で書いてあるところで、沿道からさらに南北への賑わいの繋がりが構築されている、という文章で表しているものですから、それを図で表した、というのがこのページの矢印でございます。この緑の四角の所と色を合わせた、というところなんです。9ページですと、いま現状のこの案では、その辺りの南北の回遊性云々という表現に今なっているところが、この青いところなものですから、そこで色が変わってしまっているというところなんです。どう表していくのがいいのか、この図を各ゾーンに今みたいな形でやり続けるのがいいのか、というところも再度考えて

いきたいなという風に思います。

(村木座長)

他、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

(石塚委員)

今のゾーンの図の話にも象徴されていると思うんですけども、このゾーン分けというのにこだわる積極的な理由がどこにあるんだろうか、というのをもう一度立ち返って考えた方がいいんじゃないのかな、と思います。ゾーンごとに明確に戦略が違ってくるって、違うところもあるけれども、そんなに綺麗に四つに分かれるわけではなくって、やはり大通周辺も含めたはぐくみの軸としてどういう将来像を目指すのか、という共通項が、実は多いんじゃないのかな、という気がするんですね。それを細分化してしまっただけで特色を出そうとするがために、かえって分かりづらくなっているという面があるんじゃないかなと思います。強靱化ですとか防災性とかいうのは、大きく全体を捉えてもいいわけですし、回遊性というのもそうですよね、南北東西につなげて行こうっていう、その拠点になるとか。それから今後魅力を発信していくだとか、ライフスタイルをサポートしてクオリティオブライフを感じ取れる札幌の都心にしていこうとかいうのも、全部共通の目標。ゾーンに関係なく全体に係る目標なんじゃないかなと思うんですね。全部共通の目標を一旦出してしまっただけで、でも地区ごとにやっぱり特色が違うわけですね、敷地規模が違うだとか、用途が違うだとか、そういうことがありますので、それを踏まえて今後の目標を実現していくための方向性は少しずつ違うんじゃないのかな、という気がします。例えば都心居住で住んでいる若い世帯が増えている。じゃあその特性を活かしたら、クオリティオブライフというのはどういう形でリードしていけばいいのか。それから東ゾーンは低未利用地が多い、そういう中で今後のブランドを作っていく、あるいは新しい魅力を作っていくとしたらこういう方向性を伸ばしていくのがいいんじゃないか、という書き方はできるような気がするんですね。そういう形で、ゾーンを分ける意味は無いわけではないけれども、ゾーンごとにきっちり分けて目標方針を打ち出して図にもそれは反映していこう、というのは、そもそもちょっと無理があるんじゃないのかなと。もっと素直に整理していくと、この中間段階でもわかりやすいものができる可能性があるのかな、という気がしました。

(村木座長)

ありがとうございます。多分ですね、ゾーンのことを議論するのが先に来ているのではなくて、今ご指摘があったように、ライフスタイルとか景観とかマネジメントとか全体に関連するものの説明が最初あって、それからブレイクダウンして、ここでこそそれは絶対やらなきゃいけない事、というのをゾーンの中で書いていくと、わかりやすいものになるのかもしれないんですが。検討が逆になっていると、そういうことですね。他、いかがでしょうか。



どうぞ、愛甲先生。

(愛甲委員)

全体的な作りとかの話は、いま出てきたご意見と私も同じことを考えていましたので、ちょっと細かいことだけ。今度は偶数ページの絵がちょっと気になって。8、10、12、14 ページ。これもこれからだと思うんですけど、14 ページの東ゾーンの、特に公園と周辺の一体的にみどりを、という部分はわかりやすい将来像の図が書かれて、現状とは違って中央分離帯と周辺の植樹と広場をつくるイメージが持てます。それに対して西 A ゾーン、B ゾーン、C ゾーンについては、植栽については全く同じで西 A ゾーンだけはテレビ塔が見える辺りの奥の方、創成川通の向こう側に植樹があるぐらいで、あとはほぼ同じです。これだと将来像のイメージとして何が変わるのか、みどりの方としては何をやるのか、これではちょっとよくわからない、という図になっています。今すぐというわけではなく、これから修正される時の検討でいいと思うんですけど、どうやって具体的に公園との一体感を生み出すかっていうのを、この周辺の建物との関係も含めてもう少しわかりやすい図にしていきたいと思います。先ほどの 6 つあったはぐくみの軸全体の将来像の方では割とそこはうまく書かれていたと思うので、それがこの断面図でもわかるようにしていただくと、より各ゾーンの特徴とか何をやるかというのがわかりやすくなるのかな、と思って聞いておりました。全体の将来像の 3 番の絵で、タブレットを持った人が噴水の所で遊んでる子どもの写真を撮っているように見えるのは修正するのがよいと思います。右下の 6 番の絵は、公園の芝生の上にテント張っていますが、公園でテント張るのは基本的にご遠慮いただいているはずなので、修正していただければと思います。

(村木座長)

ありがとうございます、大事なご指摘だと思います。他いかがですか。今 5 ページを皆さんお開きだと思いますが、私もちょっと気がついたことを申し上げると、最初に石塚さんからご指摘あったかと思いますが、この 1 から 6 まで一言で表すキーワードが何かっていうのは、明確ではないですね。多分、将来像として 6 つ挙げているものの何を言いたいのが明確にならないっていうのは、キーワードがないからなのではないかなと。そのキーワードが明確になると、多分ここで示している赤とか青とか、このキーワードとここで出てくるキーワードはもしかしたら一緒になるかもしれないと、それと 3 ページに出てくる象徴・発信とか、ここで出てくる理念と関係性みたいなものももう少し明確になるはずだと思うんです。それがあると、後ろ側の説明をする際にも、そのキーワードをもう一度使っていけばいいわけで、マトリックスを最後に作った時に整理できる。そういうものを目指していくと、みんなに分かりやすく、そしてどんなはぐくみの軸というのを作りたいたいのかが、もう少し明確になるのかな、と今日皆様のご意見を聞きながら思ったところでした。他、何かないでしょうか、ネガティブなご意見でも結構でございますが、いかがですか。大丈夫でしょうか

か。事務局の方、何かありますでしょうか。

(札幌市 稲垣都心まちづくり推進室長)

改めまして、都心まちづくり推進室長稲垣でございます。お忙しいところ熱心なご意見ありがとうございます。ご意見の一つ一つが非常にごもつともだなと思って、重たく受け止めながら議論を聞かせて頂きました。言い訳になってしまうんですけども、今まで3回の検討会を進めていく中で、様々なご意見を頂いていて、我々事務局としても非常に重たく受け止めて、パーツパーツで掘り下げていきながら整理をしようとしてきた経緯があって、改めて全体像を再整理したり中間報告という形でサマリーにまとめようとした時に、全体の幹というのがぼやけてしまっているのかな、というのはまず大きな反省点として受け止めていた次第です。加えて、どうしても仕方ない面もあるんですけども、まずは総論的なところから入り、具体の政策イメージみたいなものは来年度ということで置いていたので、冒頭、道路空間再配分の話から入りましたけども、あの議論も全然我々してもしっかり掘り下げられていないものですから、来年度は是非そちら、やりたいことっていうのを少し提示させて頂きながら、全体像と具体の取り組み相互のフィードバックをもう少し委員の皆様にもイメージして頂きながら議論を掘り下げていきたいという風にまずは思っていた次第です。全体を通じてその幹がぼけてしまったことに関しては、そういったやりとりを重ねていく中で再度の事務局としてしっかり責任をもって整理していきたいという風に思いましたので、今年度一旦3回のご議論の経過は、こういう議論がありましたということで、行政でするので年度代わりの報告という形はさせて頂くのですが、こういうご意見もあります、あくまでも課題整理中のものです、というクレジットも当然つけながらで報告していきたいと思ってますし、時間は無いんですけども今日いただいた中で直せる点、整理すべき・できる点は年度内にもできる修正をしながら中間報告ということをさせて頂いて、来年度に結びつけていきたいという風に思っています。いずれにしても、今日の議論でもありましたけれども、はぐくみの軸というものを今取り上げて方針をしっかりと行政としてもまとめていきたいということ思った意図は当然、札幌駅周辺が賑やかになっていますけれどもそれだけではなくて都心全体をバランス良く高めていきたい、それから非常に重要なはぐくみの軸、大通公園という資産を将来に向けてもっと磨き上げていきたいという大きな意志があって着手したものですし、それを実現するには行政だけではなくて、市民の皆さんにもきちっとイメージ共有していただける方針として作らなければいけないっていうことは、我々も同じ想いでいますので。まだまだちょっと危なっかしい形の中間資料になっていたかもしれませんが、引き続きもっと整理していきたいということを今日の場ではお伝えして、来年度も宜しくお願ひしたいと思います。以上でございます。

(村木座長)

はいありがとうございます。委員の先生方、他に何かご意見ないでしょうか。大丈夫で

すか。それでは特にご意見がなければ、これで本日の検討会を終了したいと思います。長時間にわたりありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

(札幌市 岩田都心まちづくり課長)

本日は多くのご意見を頂きましてどうもありがとうございました。議事録につきましては皆様に内容のご確認を頂いた上で、後日ホームページにて公開をさせていただきます。次回の検討会につきましては5月もしくは6月頃の開催を予定しております。具体的な日程につきましては改めてご案内をさせていただきます。本日は以上で閉会いたします。どうもありがとうございました。